

## いっそう元気！東近江

3月2日(金)に「第5回 地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江」を開催しました。

前半の話題提供では、地域支え合いコーディネーターの活動報告のあと、前回から検討をはじめた、自分の意思を伝えるツールである「みらいシート」を作成する作業をメンバーみんなでおこないました。

今回は、「みらいシート“青春編”」ということで、青春時代に好きだった曲や有名人、食べ物、よく通った場所やニックネームなど、当時を思い出しながら、ワイワイガヤガヤとした雰囲気の中でシートを記入。



「認知症の方に関わる際に、その方の若い頃の情報があると、その思いに寄り添った支援をすることができそう」という意見もあり、自立支援につながるみらいシートの活用方法についても話が出ていました。



みらいシート“青春編”

### ■グループ懇談①「地域住民と専門職・事業者がつながり合うには」

#### -気軽に声をかけあえる関係が大事-

- ・ケアマネとして利用者に関わる際に、地域と連携が取りやすいと感じる地域とそうでない地域がある。利用者と地域住民が日頃からつながりを持たれている地域は、専門職としても地域とつながりやすい。
- ・住民の中には、いずれ自分も介護サービスや事業所に助けてもらわないといけないと感じている人もいる。お互い、気軽に声をかけられる関係があるとい



#### -支えたいという思いは住民も専門職も同じ-

- ・住民としては、どんな手助けが必要なのか言ってもらえる方が動きは取りやすい。何でもできるわけではないが、自分たちに期待されていることは何かを言ってもらえる方が判断しやすい。
- ・介護サービス利用者の地域での暮らしに関して、専門職から地域に「〇〇してほしい」という一方通行ではなく、「こんなことで困っている、どうしたら良いか一緒に考えたい。」という関わり方が良い関係をつくっていく上で大切なこと。



## -住民と専門職・事業者がお互いを知り合う機会が必要-

- 自分や家族が介護サービスや事業者が実施するサービスを実際に利用していないと、話を聞いてもなかなか入ってこない。
- サロンなどで、介護の現場に携わっている職員から、具体的な話（介助の仕方、車いすの使い方、簡単なレクリエーションや体操、介護保険制度の利用方法など）を聞いてみたいという声もあるが、お願いしたら来てもらえるのか…。
- 専門職も、地域とつながりたい思いを持っているが、そのきっかけがなかなか見出せない。サロンが各地でおこなわれていることは知っているが、誰に、どこに声をかけてよいか分からない。
- てんびん倶楽部では、医療福祉専門職と地域住民と一緒に情報交換をしている。今年で3年目を迎えるが、ようやくお互いの距離が縮まってきたように感じる。
- 専門職と地域を仲介できる人や場があるとつながっていきそう。



## -つながることで生まれる、新たな取り組みの可能性-

- 地域の高齢者が集まって、野菜を作って販売する取り組みができないか。高齢者施設ともコラボレーションし、施設利用者のやりがいにもつなげることができれば…。
- ひとつの企業が作り手の募集や畑の手配、販売すべてを担うのは大変。いっそう元気！東近江には、色んな立場の人が集まっているので、それぞれの得意分野を活かした形で取り組みを広げていけるといい。



## ■グループ懇談② 「いっそう元気！東近江に参加して思うこと」

- 東近江のことを考えている人にたくさん出会えたことが嬉しい。「地域のために何かしたい！」という前向きな話ができ良かった。
- いっそう元気！東近江で、移送のテーマを取り上げて話をする中で、みなさんからいただいたアイデアを持ち帰って実践できた。（事業所間の車輛の貸し借り）
- 色んな立場、職種の方と話ができる場だった。これからもこのつながりを続けていきたい。



- 官民ともに協力しないと地域は良くならない。自分たちにできることは協力していきたい。
- 専門職による個別支援の仕事では、個人ばかりを見ていることが多いが、その個人は、色々な人とのつながりの中で生活されていることを改めて感じた。



- いつまでも楽しく暮らせる東近江の土台づくりをしていきたい。
- 今後は、第2層（地区域）からの、実際の暮らしの困りごとをもとに、自分たちにできることを考えていけるとよい。

